

日医発第1842号（生教）
令和7年2月10日

都道府県医師会
生涯教育担当理事 殿

日本医師会常任理事
今村英仁
(公印省略)

「日本医師会生涯教育制度のご案内」（パンフレット）の送付について

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、2025年度日本医師会生涯教育制度につきましては、令和7年2月6日付日医発第1830号（生教）をもってご案内いたしました。が、会員への周知を図るため、日本医師会雑誌2025年3月号にパンフレットを同封することとしております。

つきましては、本パンフレットを別便にて50部お送りいたしますので、ご査収のうえ、ご活用いただきますようよろしくお願い申し上げます。なお、パンフレットは現在印刷中のため、本会からの発送は2月21日を予定しております。

また、本パンフレットの追加送付を希望される場合には、下記1.のメールアドレスまでメールにてご依頼ください。

本パンフレットにつきましては、日医会員のほか貴会並びに貴会管下の郡市区医師会にも日本医師会雑誌3月号同封物としてお送りいたします。ただし、日本医師会からの送付物を停止されている方には別途送付いたしませんので、ご承知置きくださいますようよろしくお願いいたします。

本パンフレットは、3月上旬を目途に、PDF版として日医ホームページ（下記2.参照）にも掲載いたしますことを申し添えます。

記

1. 日本医師会生涯教育課代表メールアドレス

syogai@po.med.or.jp

ご依頼の際は、以下を明記してください。メールの署名でも差し支えありません。

(1) 医師会名、(2) ご担当者名、(3) 送付先住所・電話番号、(4) 希望数。

2. 日本医師会 生涯教育 on-line

<https://www.med.or.jp/cme/about/index.html>

※現時点では、2024年度版パンフレット（青色）が掲載されておりますので、ご注意ください。

以上

JMA

日本医師会生涯教育制度 のご案内



“日本医師会生涯教育制度”

日本医師会生涯教育制度は、医師としての姿勢を自ら律するという、プロフェッショナルオートノミーの理念のもと、医師の生涯教育が幅広く効果的に行われるための支援体制整備を目的として、昭和62(1987)年に発足しました。その後今日まで、数次にわたる制度の改定を行い、その質的向上と充実を図っています。

医師が不断に学習する姿を、より明確な形で国民に見ていただき、もって、質の高い医療を提供し、国民の健康に貢献することを目指しています。



日本医師会
Japan Medical Association

日本医師会生涯教育制度

▶ 制度概要

医師は、日進月歩の医学、医療を実践するために、生涯にわたって自らの知識を広げ、技能を磨き、常に研鑽する責務を負っています。日本医師会は医師の自己学習・研修を効果的に行えるよう生涯教育制度を実施しています。

本制度は、医師の研修意欲をさらに啓発・高揚させること、一方で社会に対して医師が勉強に励んでいる実態を示し、国民からの信頼を増すことを目的としており、連続した3年間の単位数とカリキュラムコード数（同一コードは加算不可）の合計数が60以上の者に「日医生涯教育認定証」を発行します。

▶ 制度対象者

医師を対象とし、広く制度に参加いただけるよう医師免許取得直後から参加できます。

▶ 期間

年度単位となっていますので、4月から翌年3月までに取得した単位・カリキュラムコードを、4月末日までに所属の郡市区医師会に提出して下さい（P3）。医師会会員情報システム（MAMIS）を利用する講習会等については、出席が記録されるため申告は不要です。

▶ カリキュラムコード（略称：CC）

カリキュラムコードは、学習した領域を表し、日本医師会生涯教育カリキュラム〈2016〉に基づき、84種類のカリキュラムコードが設定されています。同一カリキュラムコードを重複取得してもカリキュラムコード数は加算されません（P5）。

▶ 単位

単位は、学習した時間を表し、各カリキュラムコードごとに集計されます。最小単位は学習時間30分で0.5単位です。

▶ 単位・カリキュラムコードの取得方法（P6～7）

1. 日本医師会雑誌を利用した解答
2. 日医 e-ラーニングによる解答
3. 講習会・講演会・ワークショップ等
4. 医師国家試験問題作成
5. 臨床実習、臨床研修・専門研修制度における指導
6. 体験学習（共同診療、病理解剖見学、症例検討、手術見学等の病診・診診連携の中での学習等）
7. 医学学术论文・医学著書の執筆

※1・2は日医会員のみですが、3～7は日医非会員でも取得できます。

▶ 学習単位取得証

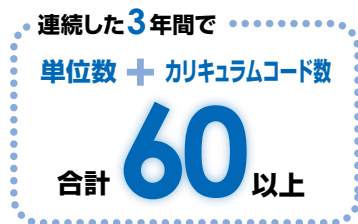
4月に申告のあった単位・カリキュラムコードに基づき、毎年11月頃に発行します（P4）※。

※学習単位取得証は、MAMIS マイページで確認、ダウンロードおよび印刷していただけます。

▶ 日医生涯教育認定証

連続した3年間の単位数とカリキュラムコード数（同一コードは加算不可）の合計数を60以上取得することにより、3年間の認定期間が明記された日医生涯教育認定証を発行します（P4）※。

※日医生涯教育認定証は、発行対象の方全員に都道府県医師会を通じてお届けします。また、MAMIS マイページにて確認、ダウンロードおよび印刷ができます。



「日医生涯教育認定証」を発行



認定期間は3年



生涯教育カリキュラム(2016)



学習単位取得証



日医生涯教育認定証

ご所属の郡市区医師会に申告してください。その後、都道府県医師会を通じて日本医師会に報告されます。

毎年、「日本医師会雑誌」3月号に同封される申告書の「生涯教育単位等記入表」に1年間の学会等参加、体験学習、医師国試問題作成、臨床実習等における指導、論文等執筆により取得した単位およびカリキュラムコードを記入し、必要書類を添付のうえ、4月末日までに所属の郡市区医師会に提出してください。

(参加証等が交付されている講習会等については、申告書に取得単位、取得カリキュラムコードを記入し、参加証等(コピー可)を添付して申告してください。)

「日本医師会」に報告された単位及びカリキュラムコードのデータに、日本医師会が管理する単位・カリキュラムコードを加算し、個々の申告者の年間合計取得単位・カリキュラムコードを確定したうえで、毎年11月頃に「学習単位取得証」(取得カリキュラムコードも明記)を発行します。

さらに、そのうえで、連続した3年間の単位数とカリキュラムコード数の合計数が60以上の者に、日医生涯教育認定証を発行します。

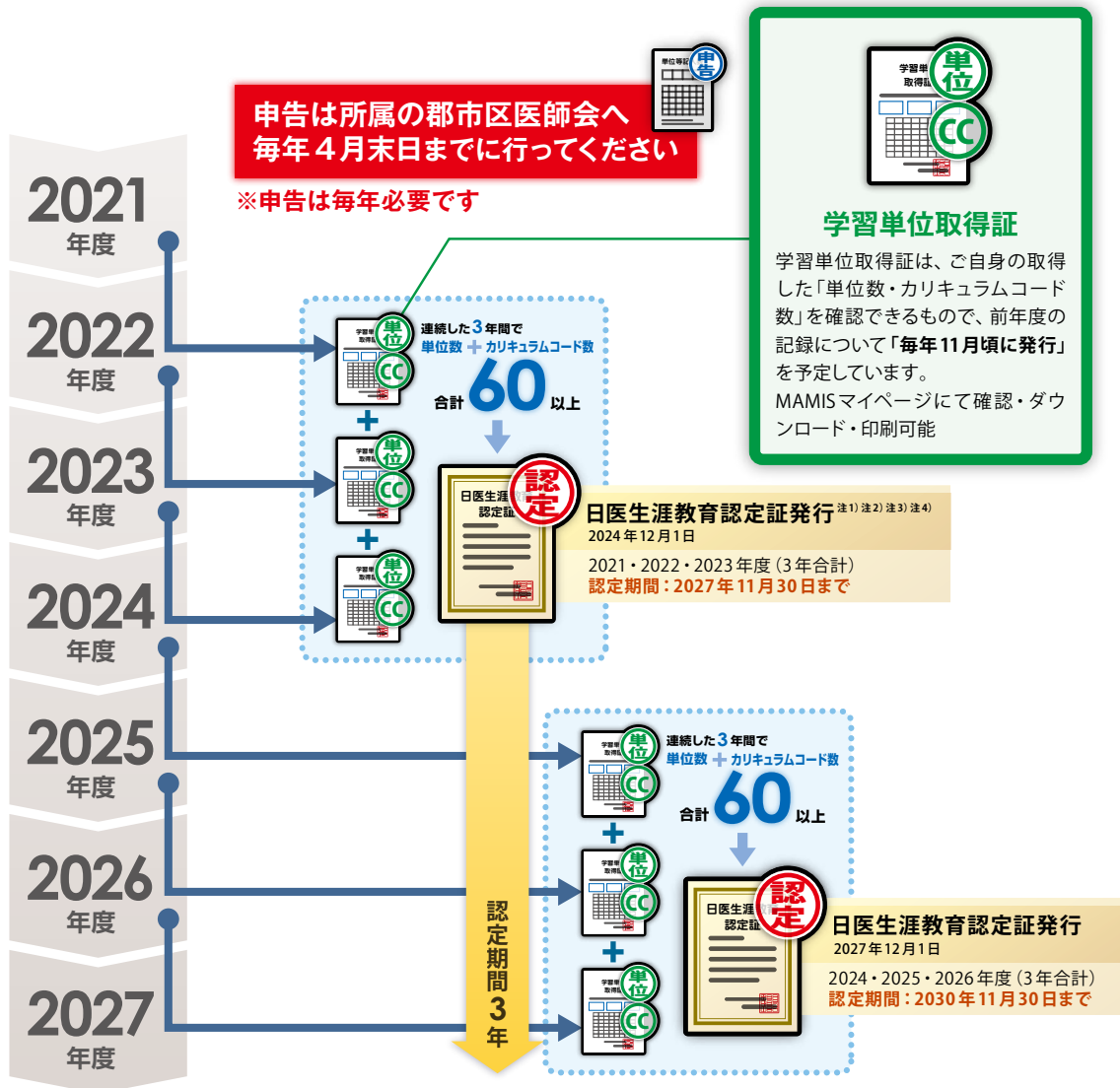
なお、同一カリキュラムコードを重複して取得してもカリキュラムコード数は加算されません。



注) 日医雑誌問題解答、日医e-ラーニング、MAMISを利用する講習会等の単位・カリキュラムコードは日本医師会で既に管理していますので、申告の必要はありません。

日医生涯教育認定証発行スケジュール(例)

○日医生涯教育認定証の認定期間は3年間です。



注1: 日医生涯教育認定証(以下、認定証という。)を発行するための学習期間と認定証の認定期間は一致しません。なお、学習期間に取得した単位等はすべて記録されます。

注2: 認定証は紙媒体で発行します。MAMISマイページからも確認・ダウンロード・印刷が可能です。

注3: 認定証の認定期間3年間の間は、単位数とカリキュラムコード数の合計が60以上となっても、認定証は発行しません。

注4: 認定期間内の認定証をお持ちでない場合、直近の3年間(2022・2023・2024年度)で単位数とカリキュラムコード数の合計で60以上を取得することにより、2025年12月1日付で認定証を発行します。

カリキュラムコード (略称: CC)

1 医師の プロフェッショナリズム	27 黄疸	56 熱傷
2 医療倫理:臨床倫理	28 発熱	57 外傷
3 医療倫理:研究倫理と 生命倫理	29 認知能の障害	58 褥瘡
4 医師-患者関係と コミュニケーション	30 頭痛	59 背部痛
5 心理社会的アプローチ	31 めまい	60 腰痛
6 医療制度と法律	32 意識障害	61 関節痛
7 医療の質と安全	33 失神	62 歩行障害
8 感染対策	34 言語障害	63 四肢のしびれ
9 医療情報	35 けいれん発作	64 血尿(肉眼的・顕微鏡的)
10 チーム医療	36 視力障害・視野狭窄	65 排尿障害(尿失禁・排尿困難)
11 予防と保健	37 目の充血	66 乏尿・尿閉
12 地域医療	38 聴覚障害	67 多尿
13 医療と介護および福祉の連携	39 鼻漏・鼻閉	68 精神科領域の救急
14 災害医療	40 鼻出血	69 不安
15 臨床問題解決のプロセス	41 嘔声	70 気分の障害(うつ)
16 ショック	42 胸痛	71 流・早産および満期産
17 急性中毒	43 動悸	72 成長・発達の障害
18 全身倦怠感	44 心肺停止	73 慢性疾患・複合疾患の管理
19 身体機能の低下	45 呼吸困難	74 高血圧症
20 不眠(睡眠障害)	46 咳・痰	75 脂質異常症
21 食欲不振	47 誤嚥	76 糖尿病
22 体重減少・るい瘦	48 誤飲	77 骨粗鬆症
23 体重増加・肥満	49 嚥下困難	78 脳血管障害後遺症
24 浮腫	50 吐血・下血	79 気管支喘息・COPD
25 リンパ節腫脹	51 嘔気・嘔吐	80 在宅医療
26 発疹	52 胸やけ	81 終末期のケア
	53 腹痛	82 生活習慣
	54 便通異常(下痢・便秘)	83 相補・代替医療(漢方医療を含む)
	55 肛門・会陰部痛	0 最新のトピックス・その他

※ 同一カリキュラムコードを重複して取得してもカリキュラムコード数は加算されません。

単位・カリキュラムコード取得方法



日本医師会雑誌を利用した解答

日本医師会雑誌（年2回の特別号を除く）には毎号、特集のテーマに関連する問題を掲載します。

解答はインターネットまたはハガキにより行います。インターネットまたはハガキによる解答はどちらか一方とし、1題につき、60%以上の正答率を得た者に単位を付与します。

日本医師会雑誌への**解答掲載後***、単位・カリキュラムコード付与については、MAMISマイページで随時確認できますので、**できるだけインターネットでご解答ください。**

これにより取得した単位・カリキュラムコードは、ログインしているユーザーIDごとに日本医師会で管理します。

※**解答掲載前は確認できません。**



日医 e-ラーニング

日本医師会生涯教育 on-line に掲載している1コンテンツにつき、1カリキュラムコード1単位を取得できます。

セルフアセスメントにおいて、80%以上の正答率を満たした場合に単位・カリキュラムコードを付与します。正答率が80%に満たなかった場合は、再解答が可能です。

取得した単位・カリキュラムコードはMAMISマイページで翌日以降確認できます。

これにより取得した単位・カリキュラムコードは、ログインしているユーザーIDごとに日本医師会で管理します。

一部コンテンツにおいて、日本専門医機構が示す「専門医共通講習」の単位を取得できます。



生涯教育ポータルサイト

日本医師会生涯教育 on-line
<https://www.med.or.jp/cme/>

日医 e-ラーニング

の受講について

日本医師会生涯教育 on-line のページには、上記2コンテンツを含む、日医会員のみなさま向けの「情報・コンテンツ」が数多く掲載され、みなさまのユーザーID・パスワードでログイン可能です。

なお、取得した単位・カリキュラムコードは、MAMISマイページで確認できます。

ユーザー ID

会員IDとして付与されている10桁の数字（半角で入力）です。
日医雑誌などの宛名欄に印刷されている10桁の数字です。

パスワード

初期設定は生年月日の「西暦の下2桁、月2桁、日2桁」を並べた6桁の数字です（半角で入力）。

例えば、「1972年2月4日生まれ」の場合、「720204」となります。

〈日医雑誌などの宛名見本〉

〒113-8621
東京都文京区本駒込2-28-16
○△医院

○○○○ 様

2024/3/1 13:0

ユーザー ID

00000000



講習会・講演会・ワークショップ等

各演題の内容に対応したカリキュラムコードと単位を取得できます。
演題ごとに1時間で1単位(最小単位は30分で0.5単位)とします。1日の上限は設けません。
1カリキュラムコードの付与は、講演時間にかかわらず、演題ごとに1つです。
単位数は、各カリキュラムコードごとに集計されます。

- ①日本医師会(日本医学会を含む)、都道府県医師会、郡市区医師会の主催
プログラムに示されている単位・カリキュラムコードを取得できます。
- ②日本医学会総会*および都道府県単位以上で開催される日本医学会分科会(P8参照)の主催
演題ごとに内容に対応した1カリキュラムコードと単位を自己申告(申告者による自由選択)で
取得できます。日本医師会生涯教育制度において付与される単位(1時間・1単位)と日本医学会総会および日本
医学会分科会において各学会から付与される単位は考え方が異なるため**一致しない**ので注意してください。
*日本医学会総会(4年に1回開催)で取得した単位等の申告は、日本医学会総会開催の翌年(4月30日まで)です。
- ③上記以外の各科医会、研究会など、各種団体の主催
都道府県医師会に事前に申請があり、承認を受けたものについて、プログラム・参加証等に示されている単位・
カリキュラムコードを取得できます。②の主催以外は自己申告ではありません。



体験学習 (共同診療、病理解剖見学、手術見学等の病診・診診連携の中での学習等)

体験学習は1時間1単位で、1回の上限は5単位までとなります。
最小単位は30分で0.5単位(1カリキュラムコード)となります。
カリキュラムコードは内容に応じたカリキュラムコードを自己申告(申告者による自由
選択)で取得できます。
なお、体験学習は、施設長・所属長等の証明書が必要です。また、それにより賃金・報
酬を得るものについては体験学習とはなりません。



医師国家試験問題作成

医師国家試験問題作成は、都道府県医師会(郡市区医師会)に提出された問題について
1題1単位とし、年間5単位まで取得できます。グループで作成されたものについても1
題につき、一人ひとりが1単位を取得できます。
カリキュラムコードは「0:最新のトピックス・その他」のみ取得できます。



臨床実習、臨床研修・専門研修制度における指導

医学生の臨床実習、医師臨床研修・専門研修制度における指導の単位は、研修者1人を
1日指導することにより1単位とし、年間の単位の上限は5単位までとします。なお、申請
には実習・研修病院、郡市区医師会等の証明書が必要です。
カリキュラムコードは「1:医師のプロフェッショナリズム」のみ取得できます。



医学学術論文・医学著書の執筆

医学学術論文・医学著書の執筆(共同執筆も含む)は、当該年度に掲載または刊行(予定
を含む)されたものについて、1回(または1件)あたり1単位、年間5単位まで取得でき
ます。カリキュラムコードは1回(または1件)につき、内容に応じて2つまで自己申告(申
告者による自由選択)で取得できます。



日本医学会分科会 (143学会)

日本アフェレシス学会	日本国際保健医療学会	日本糖尿病学会
日本アレルギー学会	日本骨粗鬆症学会	日本動脈硬化学会
日本医学教育学会	日本骨代謝学会	日本東洋医学会
日本医学放射線学会	日本災害医学会	日本内科学会
日本胃癌学会	日本細菌学会	日本内視鏡外科学会
日本医史学会	日本再生医療学会	日本内分泌学会
日本移植学会	日本産科婦人科学会	日本内分泌外科学会
日本医真菌学会	日本産業衛生学会	日本乳癌学会
日本医療機器学会	日本磁気共鳴医学会	日本認知症学会
日本医療情報学会	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会	日本熱傷学会
日本医療・病院管理学会	日本周産期・新生児医学会	日本熱帯医学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会	日本集中治療医学会	日本脳神経外科学会
日本ウイルス学会	日本循環器学会	日本脳神経血管内治療学会
日本衛生学会	日本消化器外科学会	日本脳卒中学会
日本衛生動物学会	日本消化器内視鏡学会	日本農村医学会
日本栄養・食糧学会	日本消化器病学会	日本肺癌学会
日本栄養治療学会	日本小児科学会	日本ハンセン病学会
日本疫学会	日本小児外科学会	日本泌尿器科学会
日本温泉気候物理医学会	日本小児血液・がん学会	日本皮膚科学会
日本解剖学会	日本小児循環器学会	日本肥満学会
日本化学療法学会	日本小児神経学会	日本病態栄養学会
日本核医学会	日本職業・災害医学会	日本病理学会
日本眼科学会	日本食道学会	日本婦人科腫瘍学会
日本癌学会	日本女性医学学会	日本プライマリ・ケア連合学会
日本感染症学会	日本自律神経学会	日本平滑筋学会
日本肝臓学会	日本神経学会	日本ペインクリニック学会
日本肝胆膵外科学会	日本神経病理学会	日本法医学会
日本癌治療学会	日本人工臓器学会	日本放射線腫瘍学会
日本緩和医療学会	日本心身医学会	日本保険医学会
日本気管食道科学会	日本腎臓学会	日本麻酔科学会
日本寄生虫学会	日本心臓血管外科学会	日本脈管学会
日本救急医学会	日本人類遺伝学会	日本免疫学会
日本矯正医学会	日本睡眠学会	日本薬理学会
日本胸部外科学会	日本生化学会	日本輸血・細胞治療学会
日本形成外科学会	日本整形外科学会	日本リウマチ学会
日本外科学会	日本生殖医学会	日本リハビリテーション医学会
日本血液学会	日本精神神経学会	日本臨床検査医学会
日本結核・非結核性抗酸菌症学会	日本生体医工学会	日本臨床細胞学会
日本血管外科学会	日本生理学学会	日本臨床腫瘍学会
日本血栓止血学会	日本脊椎脊髄病学会	日本臨床神経生理学学会
日本健康学会	日本先天異常学会	日本臨床スポーツ医学会
日本口腔科学会	日本造血・免疫細胞療法学会	日本臨床免疫学会
日本高血圧学会	日本大腸肛門病学会	日本臨床薬理学会
日本公衆衛生学会	日本体力医学会	日本リンパ腫学会
日本交通医学会	日本超音波医学会	日本レーザー医学会
日本呼吸器学会	日本手外科学会	日本老年医学会
日本呼吸器外科学会	日本てんかん学会	日本老年精神医学会 (五十音順)
日本呼吸器内視鏡学会	日本透析医学会	

2025年1月現在

「医師会会員情報システムMAMIS」に関するお問合せはこちら

医師会会員情報システム運営事務局 e-mail: inquiry@mamis.med.or.jp

生涯教育制度に関するお問合せはこちら

日本医師会生涯教育課 e-mail: syogai@po.med.or.jp



生涯教育ポータルサイト

日本医師会生涯教育 on-line

<https://www.med.or.jp/cme/>

本制度の詳細につきましては、ホームページ掲載の「日医生涯教育制度」をご覧ください。

